あなたも今日から 栽培名人
園芸研究家　成松 次郎

園芸ノート

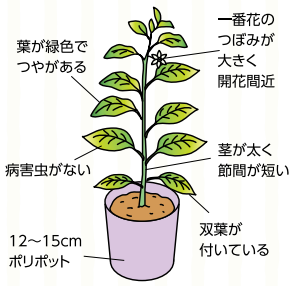
ピーマン（ナス科トウガラシ属）

トウガラシのうち、辛味のない肉厚の楕円形のものがピーマンです。また、パプリカと呼ばれているものは、赤、黄、橙などの着色した完熟果を収穫する品種です。高温性で暑さに強く、病害虫が少ないので栽培しやすい野菜です。

【品種】 ピーマンの育苗期間は70～80日と長いため、苗の購入が便利です。品種を特定することが難しいですが「京まつり」（タキイ種苗）、「翠玉二号」（サカタのタネ）などが良いでしょう。

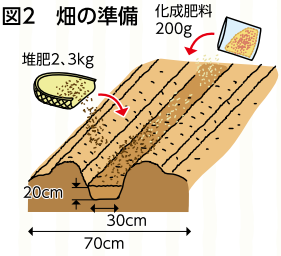
【良い苗の選び方】 良い苗は、①本葉8～10枚で、双葉が付いている②茎が太く節間が短くしっかりしている③葉が緑色でつやがある④一番花のつぼみが付いている⑤病害虫のないもの、です（図1）。

図1　良い苗の選び方



【畑の準備】 植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまいて土とよく混ぜておきます。1条植えの場合は1週間前に幅70cm程度の栽培床を作り、中央に幅30cm、深さ20cmの溝を掘り溝1m当たり化成肥料（NPK各成分10％程度）200gと堆肥2、3kgを施しておきます（図2）。

図2　畑の準備



【植え付け】 晩霜の恐れがなくなったら、株間50cm程度で植え付けます。あらかじめ黒のポリフィルムでマルチをし、地温を高めておきます（図3）。

【整枝・誘引】 植え付けと同時に仮支柱を斜めに挿し、株を支えます。一番花が着果すると、脇芽が伸びてくるので、一番花のすぐ下から出る勢いの良い2本の側枝を残し、他は取り除き3本仕立てにします。そして、一番花より下の脇芽は早めに摘み取ります（図4）。なお、一番花は着果負担があるため、開花中に摘花します。その後、主枝または側枝に沿って1m以上の支柱2、3本を交差させて誘引・固定します。

図4　整枝・誘引

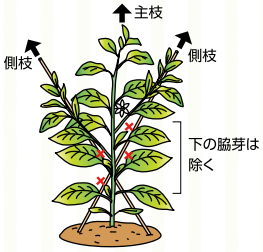
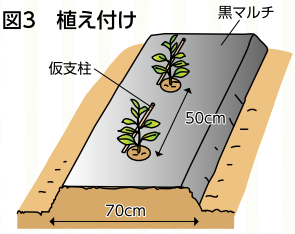


図3　植え付け



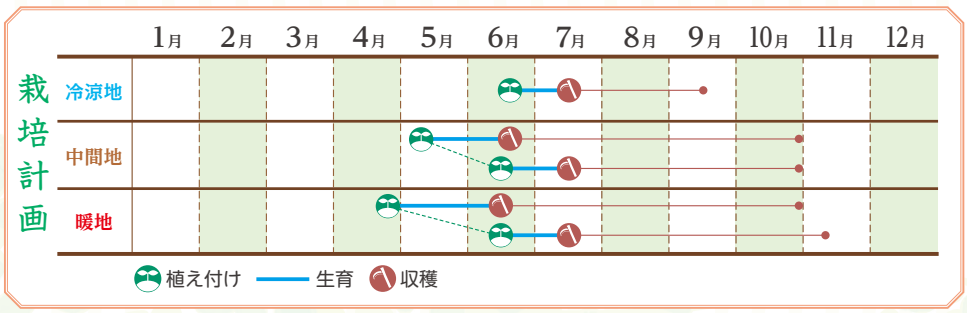
【追肥・灌水】 収穫が始まる頃から、マルチフィルムの裾をめくり、1平方m当たり（約4株分）化成肥料50g程度を株元にまき、土寄せします。その後、半月置きに畝の裾に同量を収穫中休みなく与えます。根張りが浅く、乾燥に弱いので夏場は毎日灌水しましょう。

【剪定】 盛夏になると、枝が込み合い、葉が茂って果実への日当たりが悪くなってきます。そこで、この頃に重なった枝を剪定します。

【病害虫防除】 アブラムシにはマラソン乳剤、アディオン乳剤などの登録農薬で防除します。

【収穫】 開花後15～20日、30g程度のつやのある若い果実を収穫します。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



JAグリーン津店が ピーマンのポイント 教えます！

JAグリーン津店
店長　松井 茂樹

ピーマンはナスやトマト、キュウリと並ぶ代表的な夏野菜で、家庭菜園でもプランターでよく栽培されています。ナス科の植物であるため、同じ場所で続けて育てると連作障害が起こる可能性があります。

プランター栽培の場合は、毎回新しい培養土に交換すると安心です。畑で育てる場合は、連作障害を防ぐために連作障害軽減剤の使用をおすすめします。

連作障害軽減剤
1.2L　570円（税込）
5L　997円（税込）

蟹座 6.22～7.22
【全体運】周囲からの支援が心強いとき。口うるさいと感じる助言にも聞いておくだけのメリットがあります。仕事優先で
【健康運】クイズで頭の体操を。ヘッドマッサージも◎　【幸運を呼ぶ食べ物】ウルイ